



病児保育だより

2026年 2月



今冬は暖かかったり、急に冷え込んだりと体が慣れにくい日々が続いています。冬の感染症など気をつけるべきものは色々ありますが、今回「ヒトメタニューモウイルス」について覚えておいていただきたい、症状・病態・登園登校のルール・予防法などを紹介します。

「ヒトメタニューモウイルス」ってなあに？

「ヒトメタニューモウイルス」とは、感染を起こすと「気管支喘息のような喘鳴（ゼイゼイ）」を伴う気管支炎（～肺炎）」を引き起こす「RSウイルス」とよく似たウイルスです。年長児や大人が感染しても「ただの風邪」で終わることが多いですが、「0～2歳（特に月齢の早い乳児）」「気管支喘息等肺疾患のあるお子さん」等は重症化することも珍しくありません。

「インフルエンザ」や「RSウイルス」のようにシーズン変われば何度感染を起こすことがあります。

感染経路は、ウイルスを感染者の咳・鼻汁から吸い込む（飛沫感染）、ウイルスが付いたものを触ってから口や目を介して（接触感染）となります。

予防法は、一般的な「風邪の予防」とかわりません。マスク、手洗い、消毒など。

診断と治療法は？

迅速検査で診断は可能ですが「インフルエンザ」などと違いこの感染症は「治療薬」はありません。また保険で検査ができるのは「6歳まで」のお子さんとなるため、7歳以上では症状等からの診断となる場合もあります。

治療は、しっかり加湿してあげることと、「風邪」や「喘息発作」の時に使うようなお薬がメインとなります。

「ウイルス」ですので「抗菌薬」は不要です。とくに新生児～月齢の早い乳児は早期に入院加療となる場合も珍しくありません。

重症化・合併症は？

合併症としては、重症化による「喘鳴を伴う」気管支炎～肺炎があり、入院加療のケースがあります。

いつから登園・登校していいの??

決められた自肃の日数等はありません。

しっかり解熱して、ひどい咳・鼻汁がなくなら登園・登校できるようになります。判断に迷う場合はかかりつけ医に相談をしてください。

【ここ数ヶ月間に当院病児保育をご利用された方の病気】

「急性胃腸炎」

「急性上気道炎」

「インフルエンザA」

「インフルエンザB」

「水ぼうそう」

「マイコプラズマ感染」

などなど、、、



やまさきこどもクリニック

病児保育室 Teddy's

TEL : 0956-37-8813